

第1回 東京リアルプラットフォーム連絡会 報告書



日時：
2023.01.11(水)13:30-16:00

会場：
東京ウィメンズプラザ B1ホール (東京都渋谷区)



一般財団法人 日本女性財団 2023.02
令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

2023.01.11 東京リアルプラットフォーム連絡会

式次第

令和5年1月11日

東京プラットフォーム連絡会 式次第

【日程】令和5年1月11日(水) 13:30 ~ 16:00 (終了後30分間の名刺交換時間あり)

【進行】

13:27	司会進行 会の始まりアナウンス 本日の参加者への御礼
13:30~13:40	オープニング、主催者挨拶 「日本女性財団、私たちについて」 一般財団法人 日本女性財団 代表理事 / 産婦人科医 対馬ルリ子
13:40~13:50	「東京プラットフォームがなぜ今必要か」東京のフェムシッパドクターとして 一般財団法人 日本女性財団東京プラットフォーム連絡会実行委員長 / 産婦人科医 中島 由美子
13:55~	来賓ご挨拶 東京都知事 小池 百合子氏 ※ 知事挨拶終了後、知事と登壇者の撮影時間あり
14:00~	基調講演 一般社団法人 東京産婦人科医会会長 山田 正興氏
14:20~	東京都の取り組み 警視庁 刑事部 管理官(性犯捜査担当) 一木 由美子氏 東京都 総務局 人権部 被害者支援連携担当課長 乗木 亜子氏 東京都 福祉保健局 少子社会対策部 事業連携担当課長 青山 佳司氏 東京都 教育庁 都立学校教育部 学校健康推進課長 上田 直子氏
14:45~14:55	休憩
14:55~15:45	シンポジウム 座長: 日本女性財団 代表理事 対馬 ルリ子 話題提供及びパネラー: 特定非営利活動法人 医療政策機構 坂元 晴香氏 都立墨東病院 産婦人科医 部長 兵藤 博信氏 国際 NGO ジョイセフ 小野 美智代氏 日本女性財団 フェムシッパドクター 本会実行委員長 中島 由美子
15:45~15:55	会場からの質問
15:55~16:00	終了の挨拶 日本女性財団 フェムシッパドクター 当会実行委員長 中島 由美子
16:00~	閉会アナウンス(司会) ※ 閉会后、30分間の名刺交換時間あり

● 「日本女性財団、私たちについて」

一般財団法人 日本女性財団 代表理事 / 産婦人科医 対馬 ルリ子

● 「東京プラットフォームがなぜ今必要か」東京のフェムシッパドクターとして

一般財団法人 日本女性財団東京プラットフォーム連絡会実行委員長 / 産婦人科医 中島 由美子

● 来賓ご挨拶

東京都知事 小池 百合子氏

● 基調講演

一般社団法人 東京産婦人科医会会長 山田 正興氏

● 東京都の取り組み

警視庁 刑事部 管理官(性犯捜査担当) 一木 由美子氏

東京都 総務局 人権部 被害者支援連携担当課長 乗木 亜子氏

東京都 福祉保健局 少子社会対策部 事業連携担当課長 青山 佳司氏

東京都 教育庁 都立学校教育部 学校健康推進課長 上田 直子氏

● シンポジウム

座長:

日本女性財団 代表理事 対馬 ルリ子

話題提供及びパネラー:

特定非営利活動法人 医療政策機構 坂元 晴香氏、鈴木 秀氏

都立墨東病院 産婦人科医 部長 兵藤 博信氏

国際NGO ジョイセフ 小野 美智代氏 (コロナ濃厚接触者で欠)

日本女性財団 フェムシッパドクター 本会実行委員長 中島 由美子

登壇内容

- 「日本女性財団、私たちについて」
一般財団法人 日本女性財団 代表理事 / 産婦人科医 対馬 ルリ子

今後の医療は予防と教育に取り組むことが大切。

何かが起きてから行く、あるいは死ななければ良いというものではなく、30年後のために若いときからの教育が必要。

先進的な取り組みをする東京から、医療・福祉・行政・企業が顔を合わせたプラットフォームで協力し合って支援啓発に取り組み、一人一人が自己価値観を上げ発言できる、人生を諦めない活躍社会に変えていきたい。

- 「東京プラットフォームがなぜ今必要か」 東京のフェムシップドクターとして
一般財団法人 日本女性財団東京プラットフォーム連絡会実行委員長 / 産婦人科医 中島 由美子

東京都と東京産婦人科医会の繋がり

※令和2年度 東京都 医師数：48,072、診療所従事者：16,026、産婦人科医：1,746、内、1269名が東京産婦人科医会に所属、

妊娠中絶ができるのは1269名のみ。

※総務局人権部主催で、性犯罪性暴力等被害者支援医療従事者研修を産婦人科医師、精神科医師、看護師、その他医療従事者を対象に、SARC東京、警察とも連携して年2回開催してきたが、医師であっても現状を知らなければ対応できないから、令和元年より東京産婦人科医会が共催して医会会員に周知し、性犯罪等被害者支援に携われる医師の養成に努めている。

※教育庁と連携し、生徒への性教育、養護教員や保護者への教育、婦人科医を学校医として派遣

※福祉保健局少子社会対策部家庭支援課と連携し、東京ユースヘルスケア事業「とうきょう若者ヘルスサポートわかさぼ」で相談対応

フェムシップドクターとは、自分の知識とスキルで困っている女性たちのために活動するドクターや医療従事者。

上のようなスキルをもって対応するため、研修制度を確立したい。

自治体・団体、それぞれ素晴らしい様々な活動に取り組んでいるが、そこに横の繋がりががないため、一人の人が抱えている様々な問題をバラバラなところで相談しなければならない。医療が必要な人と出会った団体から医療へ、自治体警察から医療へ、繋げられる関係が必要。

そして医療だけでは救えない点は政治を変えていかなければならない。

そのためにプラットフォームを作り、顔の見える関係で意見を出し合い協力し合う関係を作っていきたい。

登壇内容

● 来賓ご挨拶

東京都知事 小池 百合子氏

女性が自分らしく輝けることがより良い社会にとって重要。

仕事か家庭か、これまではいつも二択。待機児童という言葉が死語にすることを目標に掲げてゼロを目指し、8,500名→300名を切るところ。

意思を持ち誰のために何をするのかを明確にし、着実に実行する。都立高校の性教育や学校医、若者支援「わかさぼ」、ヘルスケアの助言等々都に協力いただいている、同じ意識を持った対馬代表、山田会長がプラットフォームを作った。

性教育の手引き改定、女性キャリアと妊娠適齢期の啓発を成人式に配布、ママパパ応援事業で産後ケアを10/10、里親対象引き上げ、不妊治療助成、多胎児支援都民の半分を占める女性のための政策、また未来の東京で活躍する子供たちにしっかり対応できる政策を進めたい

令和6年施行の困難な問題を抱える女性支援に関する法律は、関係者の声を聞きながら基本計画を策定する。プラットフォームの現場の声を都に持ってきてほしい

● 基調講演

一般社団法人 東京産婦人科医会会長 山田 正興氏

少子化の問題

1953年240万、2005年100万やっとなら、100万人を切ったら大変といわれていたが、2016年に100万を切り、2021年81万人。少子化の回復には20～30年かかる。一人一人を大切に育てなければならない。

団塊の世代の子供の出生数が減った、未婚率が高い、高齢出産はハイリスク、不妊治療は2022年4月から保険適用されたがすぐ授かるという神話、子育てのイメージが悪い、いじめ、国の政策もない、10代の出産は、半数以上が中絶

女性活躍社会の実現のためには、児童・生徒のヘルスリテラシーを上げる

性交同意年齢 13歳 明治時代から変わらない 年齢引き上げ+初経前に生殖についての教育が必要。

学校は学力向上がメインで授業で教わる機会がない。家庭での性教育、学習指導要領を越えた内容で、産婦人科医からの指導が必要。

それが将来の女性活躍社会の実現に繋がる

今必要なのは、正しい情報発信と、そこから自己決定できるスキル、女性特有疾患の受診率向上、女性の産業保健の充実、企業、社会の女性の健康課題への理解

※昨年梅毒が3人いた 40年産婦人科医をしてきて初めて梅毒患者を診た。

登壇内容 東京都の取り組み

●警視庁 刑事部 管理官（性犯捜査担当） 一木 由美子氏

東京都の令和3年性犯罪統計（認知件数）

- ・強姦性交等罪（強姦罪から罪名変更、性別問わず、性交だけでなく、肛門性交、口腔性交も含む） 219件
- ・強制わいせつ 564件

令和元年をピークに減少傾向だが、コロナで人流減少と関連している
出会い系サイト、薬物使用、被害者と犯人の間に関係のある知人間で発生

子どもに対する犯罪

- ・被害児童の供述が必要なため、被害を受けた子供に対しては一人が担当する代表者聴取（検事）

薬物犯罪

- ・被害者の記憶がない
- ・犯人が分かっているにもかかわらず慎重に調査する必要がある、二次被害を防ぐため、心理面に対処、担当性別、担当を決める、すみやかに医療に繋げ公費で対応

◎日本女性財団のプラットフォームのネットワークに関心を持っていただき初動捜査がとても大切であることを知って頂けることは有難い

●東京都 総務局 人権部 被害者支援連携担当課長 乗木 亜子氏

東京都性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援事業 ◎相談事業の令和3年度の支援実績は前年度を上回っている

1 東京都性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター

特定非営利活動法人性暴力救援センター・東京（SARC東京）と協働で24時間365日体制で運営（電話8891）

2 その他のワンストップ支援事業

- 連絡調整会議 ○ 専門家懇談会 ○ 医師等医療従事者を対象とした研修を産婦人科医会と共催
- 性暴力等被害者に対する医療費等助成制度—警視庁の公費支出制度など他の公的な金銭給付を受けられない場合に助成金を交付

【対象】

- ・被害時に東京都に在住の方。ただし、被害直後の急性期対応については、居住地に関わらず対象。
- ・都のワンストップ支援センターに相談し、同行支援を受けた方 等

登壇内容 東京都の取り組み

●東京都 福祉保健局 少子社会対策部 事業連携担当課長 青山 佳司氏

これまでの取り組み

若い層への普及啓発(小冊子・Webサイト)、妊娠に関心が出てきた層への普及啓発(Web)
妊娠相談ほっとライン、不妊・不育ホットライン、女性のための健康ホットライン
母性等の保健に関する区市町村の取組への財政支援



今年度からの取り組み

性に関する悩みや不安を抱えることが増えてくる時期に身体の特徴や性に関する正しい知識などを身につけることが重要
若者が気軽に相談できるよう、新たな相談窓口を設置
「とうきょう若者ヘルスサポート（わかさぼ）」電話・対面・メール・ワークショップ

広報：

連絡先を記載したカードを、都内の中学校や高校を通じて配布したほか、保健所・保健センターや福祉事務所等にも送付
ホームページ、広報 東京都 1月号、Twitter、LINE、TikTok

●東京都 教育庁 都立学校教育部 学校健康推進課長 上田 直子氏

都立高校等における産婦人科医を活用したユースヘルスケア事業
令和4年度より開始

- (1) 産婦人科医を新たに学校医として任用し、都立高校等でヘルスケアの専門相談を実施（対面・オンライン） 10校
- (2) 産婦人科医等による教員向け研修や公開授業を実施し、ヘルスケアの正しい理解や対処法について幅広く普及啓発 6校

事業効果

- ・生徒からは相談できたことや解決できたことへの喜びの声
- ・取り組みに対する親の満足度100%、さらに今後実施してほしい講義内容として
生理痛について／生殖機能について／自分を守る行動について／HPVワクチンについて／ピルについて 等声が上がった
- ・学校からは生徒を医療へ繋げられるようになったという声

登壇内容 シンポジウム

●特定非営利活動法人 医療政策機構 坂元 晴香氏、鈴木 秀氏

日本医療政策機構（HGPI）・・・2004年に設立された非営利、独立、超党派の民間の医療政策シンクタンク

女性の健康プロジェクト

- ・女性のライフサイクルに沿った健康増進支援の充実
- ・必要な女性たちを相談機関や医療機関へ繋ぐ仕組み作りの構築

ヘルスリテラシーの高い人の方が、

- ・PMS（月経前症候群）や月経随伴症状時における仕事のパフォーマンスが高い
- ・望んだ時期に妊娠

親の認識が「月経痛は我慢するもの」という認識であると、薬や受診控えをしている人が多い

性と生殖に関する健康と権利（SRHR）＝自己決定と質の高い包括的性教育が必要

包括的健康（性）教育を受けた大学生の

- ・86.4%が正しい知識が不足していたと回答
- ・97.4%が必要だと思うと回答

ユースヘルス政策に関する提言

- ・包括的性教育の教育機会の拡充と、社会全体のSRHRに関する理解を促進する
- ・誰もが生涯を通してSRHRに関する正しい情報を得られ、必要に応じて悩みを相談できる場を拡充する
- ・SRHRの充実した性教育の実施、および、効果的な啓発活動や継続的な相談窓口の設置を可能にする長期的な経済的支援を行う

登壇内容 シンポジウム

●都立墨東病院 産婦人科医 部長 兵藤 博信氏

墨東病院は隅田川の東側に位置するが、近隣で対応できなかったから連絡が来ているという観点から、総合周産期センターとして連絡があれば地域に関わらず対応する。

医療的には問題がなくても、行政と繋がる必要のあるケース、産後の環境がどうなるのか等問題を抱えているケースもある。

規模に関わらずどこの病院でも自治体と連絡を取りながらやっていく体制を整えればできる。

妊娠出産とは家族が増えるシーン、そこで女性が一人で立ち往生するときの対応に力を割いている。これからも女性の力になっていく。

●実行委員長 中島由美子

施策と施策の間で取りこぼされる例が多い。どうやって訴えれば良いかわからない、自分の困窮に対する認識ができない人もいる。

助けてくれる大人は良い人ではないことが多く、そこから抜け出せない人もいる。

その人の一生は続いていくが支援は1回限りになりがちのため、続けていくためには行政との繋がり、行政が動くためには政策が必要、プラットフォームがあることにより行政・政治・現場を繋ぐことができる

●対馬代表

経験することにより、医療者しか出来ない対応は医療者が、その後はその分野の専門に繋げることを知る。連携は有難く、真摯に取り組みたい。

一検診ギフトの繋がり「ブリッジフォースマイル」様からの紹介者がPMSで学校にいけないと聞き

ピルを勧めたところ、諸事情がありお金がないという話から「在学中(あと1年)のピルの補助」を提案、ピルの感想レポートを紹介。

会場からの質問・意見

◆質問：杏林大学医学部4年 石ヶ森 威彬 様

少子化社会で起きている問題に対し医師として出来ることは何かあるか？

◆回答：都立墨東病院 産婦人科医 部長 兵藤 博信氏

自分が患者になった時にかかりたいと思う医者、というのを常々考えてほしい。「患者目線」でいること。大学病院や高次医療機関の医師は「診ても良い」という対応に知らず知らずなりがち。

<意見>

●SARC東京 平川様

今回、墨東病院と繋いでいただき有り難い。
病院と被害者、病院と相談者をつなぐ活動 advocate をしているが日本語では同行支援と言われる。
今年度は11月で前年度の2倍。ワンストップ支援センターは11年目にして周知されてきたように感じている。

●NPO法人ブリッジフォースマイル 林様（学生のピルレポートの紹介を受けて）

18歳の巣立ち支援が主だが、個人のフォローは大きな点しかできないため、この繋がりによって子供たちに喜びがあることに感謝する。

NPO法人ブリッジフォースマイル 林様の言葉を受けて対馬代表より：訊かなければ、出てこない言葉がある。ピルについてはクラウドファンディングなどを活用して補助しているが、いずれは公的支援に繋がりたい。隙間がある問題については包括的に考える必要がある。

会場からの意見

●特定非営利活動法人 医療政策機構 坂元 晴香氏

社会的経済的な格差が健康にどう影響しているか（1月末に発表）
リテラシーは環境への取り組みなしには改善されない。環境的な格差を健康格差に繋げない視点が必要。

●都立墨東病院 産婦人科医 部長 兵藤 博信氏

陣痛が来て初めて病院に来るよりも、いつでも良いから受診すること。それを受け入れる医師の心持が大事。

●司会 落合香代子（一般社団法人ママリングスの立場から）

都の施策にあっても住んでいる地域により違ったり、情報を知らないこともある。
プラットフォームは企業との連携もある。市民の暮らしには企業との繋がりも重要。

●日本女性財団プラットフォーム委員会 河合麻実（NPO法人リマインド）

女性活躍と言いながら、命懸けで出産し産後には身体トラブルに悩まされているママたちは、まさしく隙間に落ちてしまっている。

●日本女性財団評議員 株式会社サンリオエンターテイメント 代表取締役社長 小巻 亜矢様

産婦人科医と同じように、キティちゃんも子どもから高齢者まで幅広く繋ぐ。女性の検診活動等に取り組んでいるが、難しい話題もキャラクターで
まろやかにしていくことができる。案があれば連携を。

会場からの意見

●東京助産師会 会長 宗祥子様

日本の育休制度は世界一だそうだが、男性で育児できる人が少ない。プレコンセプション、ユースヘルス、考える機会がない。妊娠出産の勉強をする機会がないため、新生児を抱けない人が多く、子育てにスムーズに入れない。教育が必要。

●コネクテッド・インダストリーズ株式会社 代表 園田 正樹先生

病児保育事業のデジタル化

自分自身、育児に参加しようというマインドでいて、抱っこ沐浴一つ一つのスキルはあったが、何かあると妻に訊くことが妻にとって負担になっていた。男性が主体性をもって育児をする必要がある。

教育がなかったこれまでの中で、お父さんはタスクはこなせるようになっているので、子育てに必要なことを知るコンテンツを当たり前を使うようになると、日本人の変化は早いと思う。

こども家庭庁の基本法である生育基本法の基本方針を議論している会議を紹介
本日の議題は「都道府県の役割」「指標」についてだった

地域格差の是正

三重県島根県の例で、市区町村レベルに任されていたことを県が「標準化」、子育て支援に対し同じ問診、同じガイドラインでやると決めたら、現場の負担が減りクオリティも上がった。

情報の分断

リアルな繋がりとデジタルが必要。

閉会挨拶

●実行委員長 中島由美子

行政の力だけでなく、医療・福祉・政治・経済の連携を目指す日本女性財団のプラットフォームだが、都の女性支援は窓口も多いため、横の連携をするためにはプラットフォームに参加していただくことで新しいものができると思っている

参加者

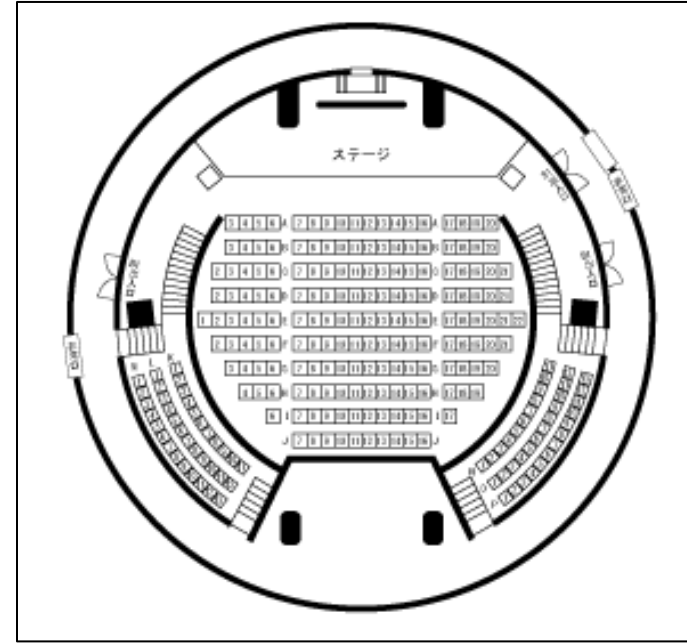
93名 登壇者含む 右は含まず：当日来場者, 財団 9, ボランティア 5
医療関係者 19, 行政 12, 団体 16, 大学関係者 4, 議員 2
企業 30, メディア 10

収支

WAM助成予算			支出
委託費	会場費、謝金(登壇者・ボランティア)、所費(チラシポスター・印刷)	300,000	483,584
謝金	準備運営スタッフ謝金	30,000	30,000
旅費	財団スタッフ交通費(登壇・出席・ボランティア交通費を含)	3,000	13,370
	自己資金	193,954	
	計	526,954	526,954

収入	526,954
支出	526,954
差し引き計	0

会場外観・レイアウト



視聴覚室A(関係者控室)



第2講師控室(都知事控室)



制作物

A3ポスター



A4チラシ



動画



<https://www.youtube.com/watch?v=Nmm7xibExuw>

* 来場者アンケート

居住地		
世田谷区	5	
新宿区	3	
杉並区	3	
品川区	3	
文京区	2	
港区	2	
調布市	2	
足立区	1	
江戸川区	1	
練馬区	1	
千代田区	1	
台東区	1	
八王子市	1	
都外	6	

職業		
医療従事者	5	
公務員	2	婦人相談員,事務
支援団体	6	
自営業	1	
団体職員	2	
民間会社	16	飲食業,ITオンライン診療,製薬業 10, 出版社,損害保険,医療機器
その他	1	

* 来場者アンケート

本連絡会に期待したことを教えてください。（複数回答可）

1) 日本女性財団とは何か知りたかった（活動に興味があった）	25
2) フェムシップドクターとは何か知りたかった（活動に興味があった）	20
3) 講師の講演に興味があった	17
4) その他 今後の活動を知りたかった,今の活動を知りたい	2

本連絡会は期待した内容だったか教えてください。

1) 期待した内容だった	22
2) 概ね期待した内容だった	10
3) やや期待外れだった	0
4) 期待外れだった	0

本連絡会の内容は、ご自身の今後に変化を与えるきっかけとなるような内容だったか教えてください。

1) そのような内容だった	21
2) 概ねそのような内容だった	12
3) ややそうではなかった	0
4) そうではなかった	0

* 来場者アンケート

良かった点や今後に活かしたいと感じたこと、又はよくわからなかった点やもっと知りたかったことを教えてください。

様々な活動があること、そしてそれが繋がっていることがわかりとても学びになりました。

私の日常では出会えない方々のお話を伺う事ができ、色々考えさせて頂けております。

生活に困っている人(課税額を決めて)医療費の無償化を考えて頂きたいと思いました。

小学校や子供の性教育の不十分さを理解した。女性の健康を考えたときにいろんなタイミングでとりこぼしや穴があるんだと気付きました。

加害者対策、男性だけでなく全世代・全人類に人権教育と同意についてを婦人科の先生たちに知らしめてほしいです。

色々な課題があるのは良くわかったが、それをどう今後具体的に解決に向けて動かしていくか。

10代の性の知識がまだ浅いことを理解できました。そういった事のサポートもしていけたらと思いました。

若者、特に小学校高学年からの性教育の大事さがよくわかりました。また親への教育、啓蒙も積極的に行っていくべきと思いました。

知らなかった女性の現状の課題、それに取り組まれているNPOetcの団体を知ることができたこと

* 来場者アンケート

良かった点や今後に活かしたいと感じたこと、又はよくわからなかった点やもっと知りたかったことを教えてください。

緊急避妊薬のOTC化にはどのような立場ですか？女性の困った状況を考えると必須のこのように感じています。産婦人科医会(学会?)が反対の立場と聞きがっかりしています。

現場で生理トラブルを抱える女性が多いが検診へのハードルは高いようです。ハードルを下げて検診にかかるよう繋げていきたいと思います。

若者向けの取り組みについて以外のものも知りたい。行政以外での取り組み(民間)も話を聞きたい。企業と行政、医療関係の協同的取り組みがあれば知りたい。

具体的に行政・政策とどういった連携をとっているのかイメージが湧かなかったので知ることが出来て良かったです。色々と情報を見に行きたいと思いました。

東京都の取り組みについて大まかに把握することができた。

兵藤先生、対馬先生が受診した女性に「来てくれてありがとう」と言える医師であることと仰っていました。私は助産師で現在は助産師を教育する立場ですが、妊産褥婦が受診したい、助産師に会いたいと思ってもらえるような助産師になってもらえればと思っています。

包括的性教育について必要性を強く感じました。横の繋がりをいかに有効に活用するかを意識できました。

* 来場者アンケート

良かった点や今後に活かしたいと感じたこと、又はよくわからなかった点やもっと知りたかったことを教えてください。

学校と婦人科を繋げた性教育の取り組みが聞けて良かった

前半読めず) 海外の状況も知りたい

産婦人科医が積極的に性教育(学校現場で)に携わるようになってきたことはとてもよかった。望まない妊娠の結果、中絶を経験する女性が少しでもなくなるよう各年代の子供たちがしっかり性について学べるよう産婦人科医にもっと活動してほしいと思いました。

NSとして女性の社会進出の問題に関して向き合ってきたこと、26年前の大学病院の産婦人科NSとして大学病院で多胎妊娠、不妊治療、人工妊娠中絶をする患者さんと多数向き合ってきた、見てきたことすべてが大きな社会問題となり、子供たち(娘18歳、息子20歳)の未来が本日の会の方々の活動にかかっていることを感じた。母として女性として医療者として、私にできる事を協力していけたらと思っています。夫に20年前に育休を取ってもらったことも思い出し、先日こどもが20歳に育って感無量の想いです。有り難い環境であったと実感しました。

* 来場者アンケート

これからの東京プラットフォーム連絡会（または日本女性財団）の活動に期待することをお聞かせください。

女性の困り事を具体的に解決していただける事を期待します。

困ったときに相談できる窓口、困窮者向け経済的サポート

乱立している色々な支援団体・NPOを繋ぐ役割、ユーザーとなる女性たちがわかりやすい・入りやすいプラットフォームを構成されてくださる事を期待します。

日本女性財団の立ち上げの時から知っている私としましては、このように多くの方々と連携が取れて大きくなっていることに期待しております。

包括的に総合的に献身的にサポートできる流れが大きくなると良いなと思いました。

買春者の意識変容のアシスト、指導。メンタルを病む女性も多く、精神科医との連携もお願いしたい。

より横の連携が広がれば良いと思います。

DVの支援、ネットワークづくり

すべての年齢の女性が心身ともに働きやすく生きやすい社会をつくっていただきたいです。女性を取り巻いている環境について本当に勉強になりました。

* 来場者アンケート

これからの東京プラットフォーム連絡会（または日本女性財団）の活動に期待することをお聞かせください。

首都として先陣を切るような活動ができると良いですね。女性知事ですし！

街の保健室の立ち上げを考えています。

今後、公的支援が受けられるようになることを期待しています。

医療の専門家ならではの知識、経験を活かした幅広い女性の連礼装に役立つ情報を発信してほしい。

皆が正しい情報へ簡単にアクセスできるようになること。発信はされているのだと思いますが、当たり前
に普及させるとするのが難しく課題かと思います。

性教育の充実、SRHRの普及のための活動

今後も本日のような連絡会を設けて頂きたいと思っています。

貧困等の女性支援、格差の改善等

昨年8月のフェムシップの日、今回1月のプラットフォームの会を毎年定例で開催してはいかがでしょうか。

若い女性の支援体制強化にお力を果たして頂けたらありがたいです。

* 来場者アンケート

これからの東京プラットフォーム連絡会（または日本女性財団）の活動に期待することをお聞かせください。

中絶・望まない妊娠を減らすこと

女性の健康や女性医学に関する情報発信やセミナー等産婦人科医ならではの活動を期待しています。学校医(性教育)、人工妊娠中絶前後のpatient-centered-care、産後うつ対策(出産後の女性母子ケア)やサービスの開発

東京都と連携することで、公的機関と連携による活動の認知度をさらに上げて頂き、多くの方が活動を知って頂きたいです。

* 来場者アンケート

これからの東京プラットフォーム連絡会（または日本女性財団）の活動にこんなことで協力できる、ということがありましたらお聞かせください。

(子育てパレット三浦様)協力ではなくお願いになりますが、ママの孤立感についてのアンケートを産後ケアなどで取っていますが、とても狭い範囲になります。もし可能でしたら、1万人のアンケートの第2弾としてご協力お願いできましたら幸いです。ご検討宜しくお願い致します。

SARC東京の活動を円滑に動かしていくのが私のできる協力です。

私も女性や子供の駆け込み寺を作りたいと思っているので連携させて頂ければと思っております。よろしくお願いたします。

今、事業の中でオンライン診療(ピル処方)を行なっているので何かしら協力したい。

中高生などの性教育の支援の際にピルの知識や案内などの協力ができるのではないかと感じました。

DVの支援団体、DV専門としている精神科医などに繋がられます。DVや虐待を中心とした研究に協力できます。

今回を機に自分たちにできる事を見つめなおしたいと思います。

「知らない」「無知」が格差を生んでいると思いましたので、SNS,Webサイト等での情報発信に関して何らかの形で協力させて頂けたらと存じます。女性の支援(ヘルスリテラシー向上)のために情報発信していけたらと思います。

* 来場者アンケート

これからの東京プラットフォーム連絡会（または日本女性財団）の活動にこんなことで協力できる、ということがありましたらお聞かせください。

シェルターの提供等、条件があれば知りたい。自分がフェムシッパドクターの資格を取り、小学校中学校に性教育を届けたい(小児科医なので)

相談者と産婦人科医を繋ぐ活動。当面はト一横キッズに集まってくる若者へ対応するための協力。

現在は寄附のみの支援になってしまっておりますが、今後連携できたらと思っています。

一人の働く女性として、現状の悩み(企業で働く女性社員の悩みや問題)等を挙げることで、より幅広い活動への協力ができるのではと思っています。

今すぐこのことが協力できるともうしあげることにはできませんが、何かできることがないかと感じています。

美容室と婦人科を繋げた女性健康エコシステムを作り、日本女性財団のPR活動、また具体策の展開を提供できればと考えています。

望まない妊娠の結果、中絶を受ける女性の中で経済的に困窮している方々に必要な物品(医療機器)の提供について協力させていただきたい

医療専門職(DR、薬剤師、NS、助産師など)に活動を紹介する、お繋ぎする。SNSの発信。若者(高3と大学2年)を使っの発信、情報の拡散。高3娘は食に関する学校に行っているの、妊娠に関する体作りや食事に関しての取り組みが大学などと連携して学びを深めていけたらよいと思います。